

## 参考資料

# 地下鉄七隈線（天神南～博多）沿線まちづくりガイドライン検討委員会

## 《第1～3回検討委員会資料》

### 【目次】

0. はじめに	1
1. 対象範囲の設定と基本的な考え方	4
2. 地区の現状と問題点等	5
3. まちづくりの目標の検討	14
4. まちづくりのテーマの検討	15

※第1～3回の検討委員会において、各委員から出た意見を掲載しています。

## O. はじめに

### (1) 地下鉄七隈線（天神南～博多）沿線まちづくりガイドラインについて

#### ①ガイドライン作成の趣旨

- 地下鉄七隈線沿線区間のルートとなる国体道路～はかた駅前通りは、天神と博多駅地区を結ぶ重要な回遊軸であり、延伸事業に合わせて回遊性の機能強化に取り組む必要があります。
- また、回遊軸の中間に新駅が設置されることから、天神と博多のつながりを強化すべく、中間駅周辺での駅を活かしたまちづくりが必要です。

以上のことから、回遊性の強化を図るため、まちづくりの指針となる「地下鉄七隈線（天神南～博多）沿線まちづくりガイドライン」を策定します。

#### 「沿線まちづくりガイドライン」の2つの柱

- 天神と博多駅地区をつなぐ、回遊性を高めるまちづくり
- 中間駅周辺での駅を活かしたまちづくり

#### ②ガイドライン検討委員会

- ガイドライン策定にあたっては、道路、河川、交通の各管理者を始め、沿線の地域やエリアマネジメント団体などの関係者と連携を図りながら、2つの柱に沿った、沿線のまちづくりの方向性や取り組むテーマを官民共働でまとめるため、「沿線まちづくり検討委員会」を組織します。

#### ③検討委員会及びガイドラインの位置づけ

- 検討委員会は、福岡市の附属機関等として位置し、そこで取りまとめられた成果を踏まえ、福岡市として沿線まちづくりの取組み目標に位置づけます。

#### ④ガイドラインの活用

- 沿線の民間開発やまちづくり活動に対し、配慮すべき事項として、周知・誘導を図ります。
- 示された方向性に沿って、沿線まちづくりの進め方を検討します。

### (2) 検討委員会の内容とスケジュール

#### O. はじめに

- (1) 地下鉄七隈線沿線まちづくりガイドラインについて
- (2) 検討委員会の内容とスケジュール
- (3) 地下鉄七隈線沿線まちづくりの取り組み
- (4) 地下鉄七隈線延伸計画の概要

#### 1. 対象範囲の設定と基本的な考え方

- (1) 対象範囲の設定
- (2) 検討の基本的な考え方

#### 2. 地区の現状と問題点等

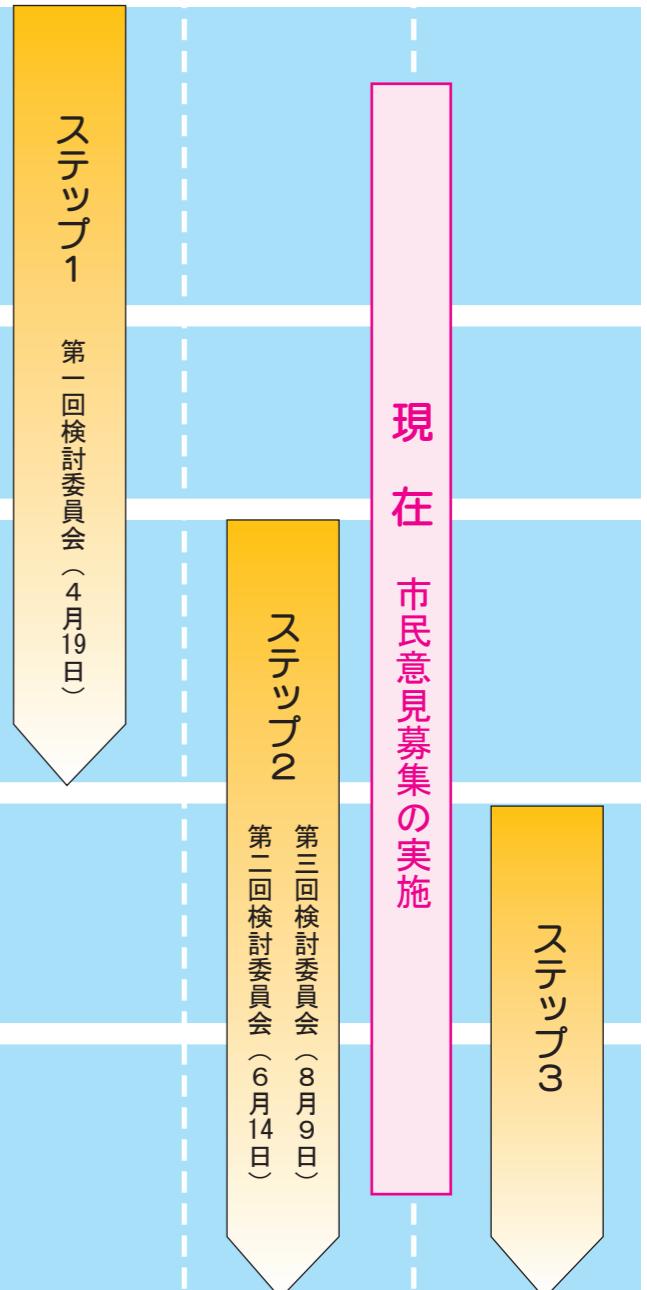
- (1) 上位計画等の整理
- (2) 「検討地区」の魅力と問題点
- (3) 「周辺地区」の魅力と連携上の課題
- (4) プロジェクト等の現状や整備動向

#### 3. まちづくり目標の検討

「検討地区」について、将来にわたって守りつづけることが望まれるまちづくりの目標の検討

#### 4. まちづくりテーマの検討

まちづくりの目標を受けて、当地区が目指すべきまちづくりの方向性を幾つかのテーマに分類して検討



地下鉄七隈線（天神南～博多）沿線まちづくりガイドライン作成

## (3) 地下鉄七隈線沿線まちづくりの取り組み

福岡市では、平成17年に2月に開業した地下鉄七隈線の整備を契機として、沿線でのより良好な市街地形成を図るために、各駅周辺において「沿線まちづくりガイドライン」を策定し、地域と行政がそれぞれ役割分担しながら沿線まちづくりに取り組んでいます。

## 【まちづくりの取り組み方針】

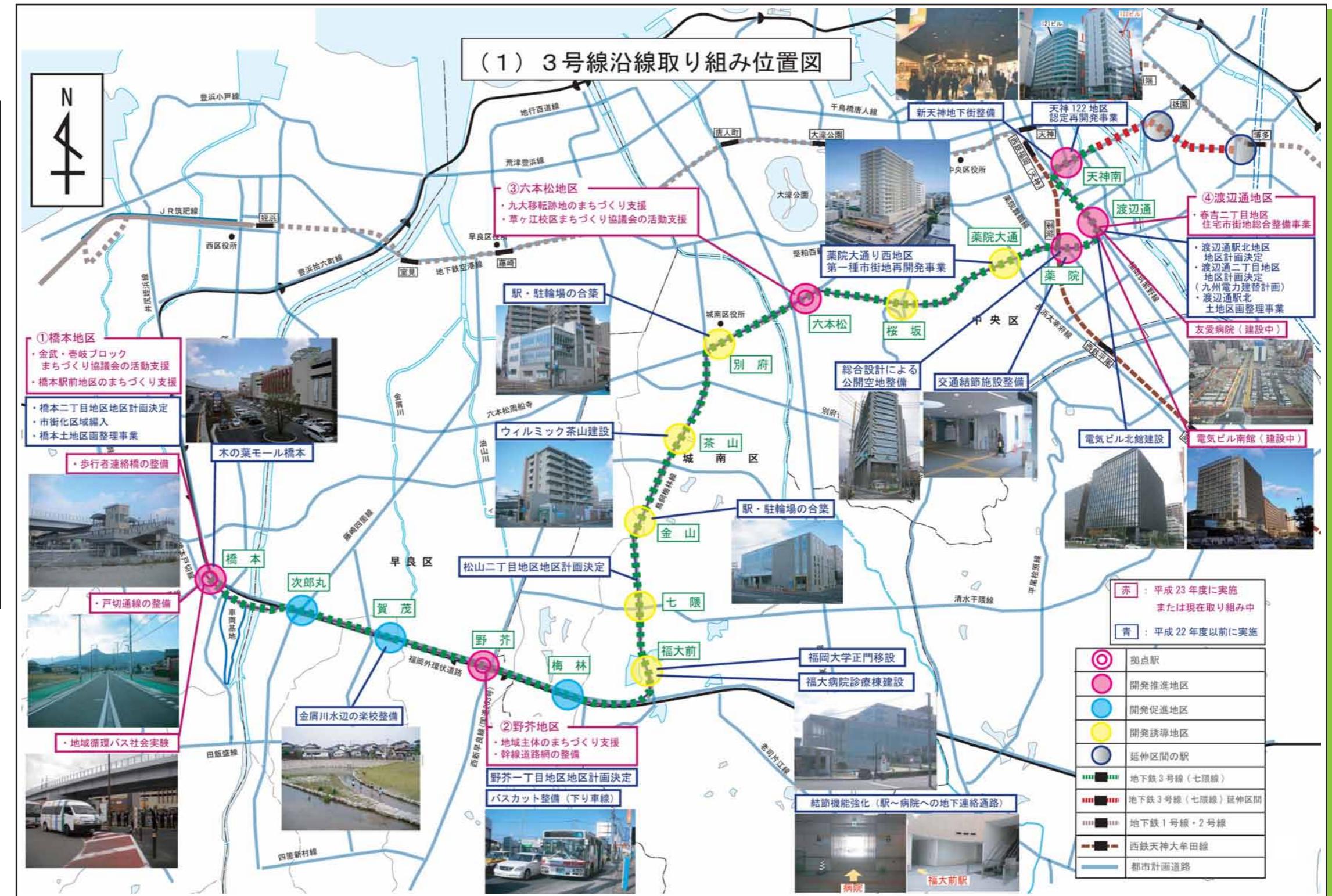
○既設線においては、沿線の良好な市街地形成を目指して、平成10年に「沿線まちづくりガイドライン」を作成しました。

## ◆沿線まちづくりの基本的な考え方

- ①多核連携型都市構造の形成と鉄道駅を活かした市街地の整備
- ②地下鉄3号線の交通結節機能の強化
- ③総合的な交通体系を確立する為の道路網や形成

## ◆沿線まちづくりの目標

- ①交通利便性の高いまち
- ②安全に移動できるまち
- ③にぎわいのあるまち
- ④調和のとれた快適なまち



#### (4) 地下鉄七隈線（天神南～博多）延伸計画の概要

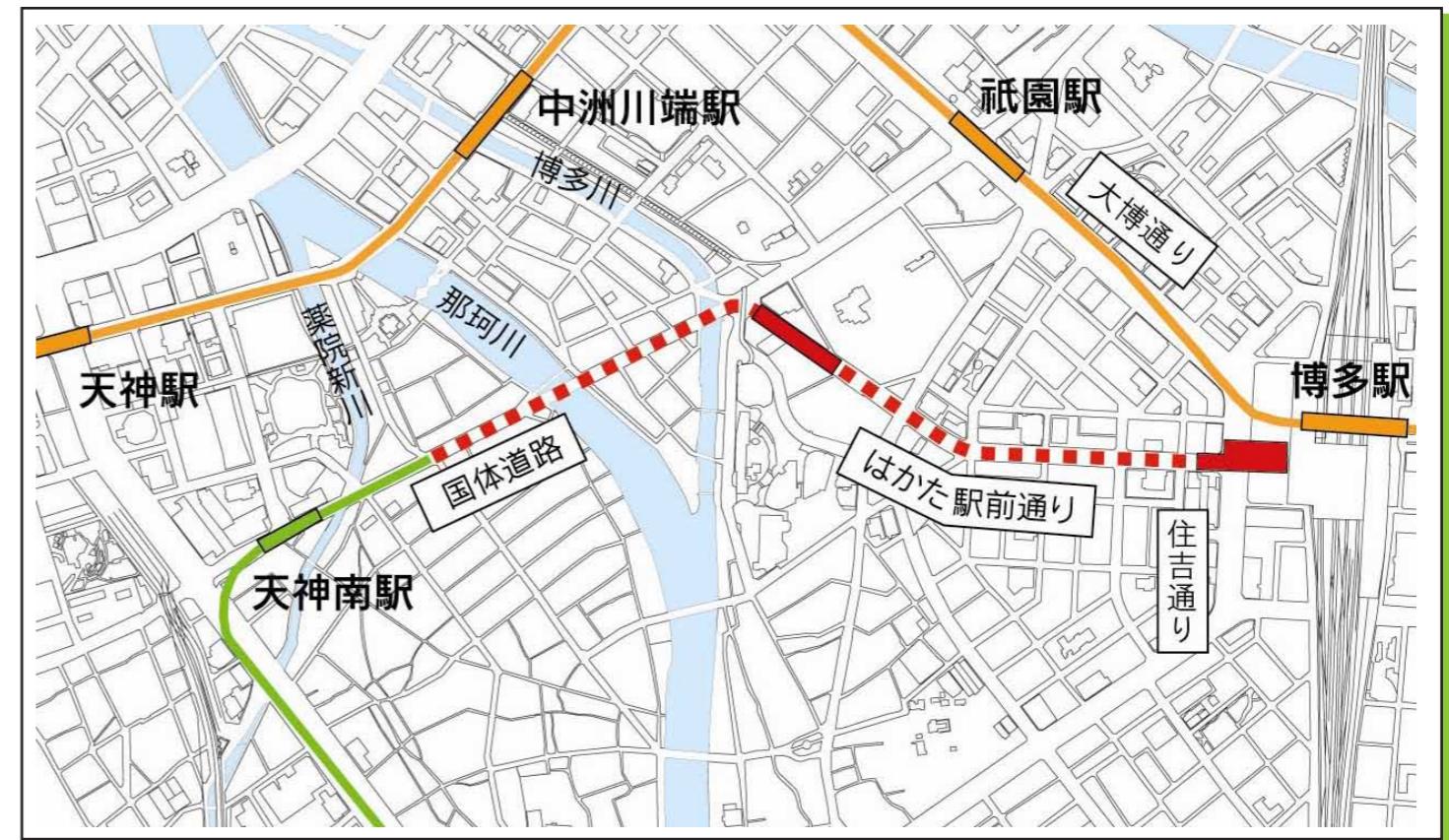
地下鉄七隈線は、平成17年2月に橋本～天神南間を開業し、利用者も着実に増えており、地域の足として定着が進んでいます。しかしながら、都心部の区間が未整備で残ったままとなっており、鉄道ネットワークとしては不十分な状況であることから、平成23年度より、天神南～博多間の延伸に向けた取り組みを進めています。

##### 【計画の概要】

- 区間：天神南～博多
- 建設キロ：約1.4km（営業キロ：約1.6km）
- 建設費：約450億円
- 開業予定：平成32年度
- 乗車人員：約6.8万人／日（うち新規利用者：約2.1万人／日）

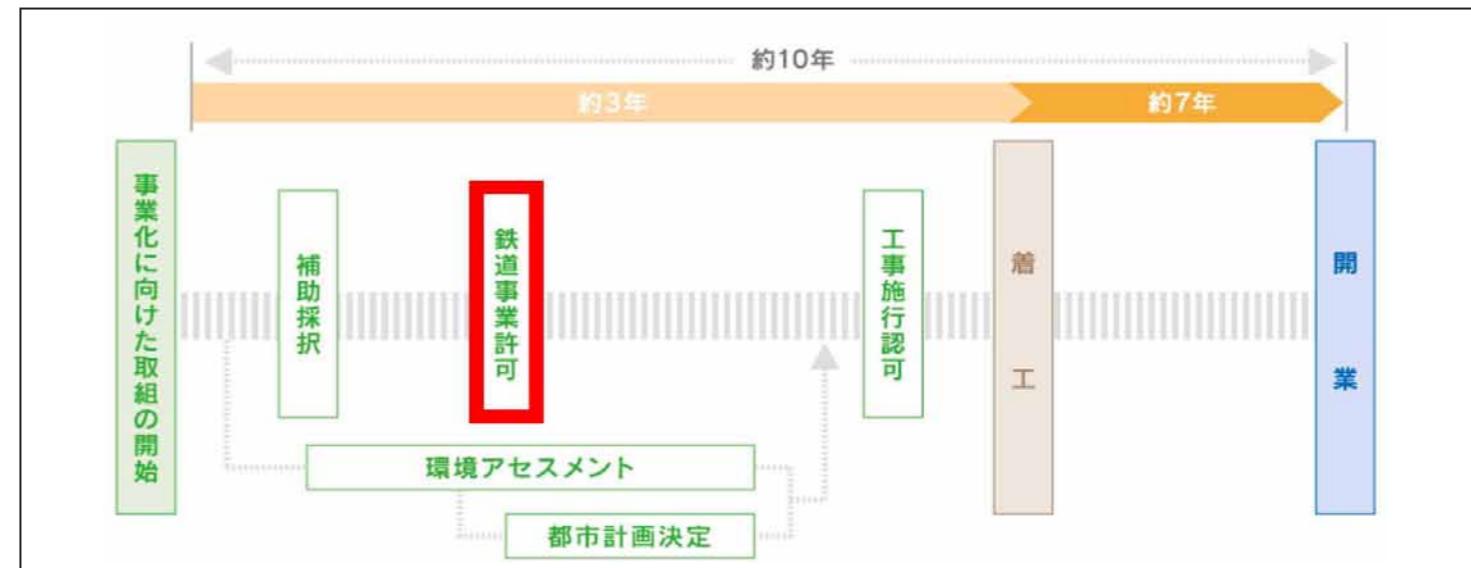
##### 【最新エネルギー技術導入等による新たな駅の検討】

延伸区間の新駅整備については、再生可能エネルギーの導入や省エネルギー技術の積極的活用などを検討します。



##### 【開業までの予定】

鉄道事業許可、道路敷設許可、工事施行認可等経て、着工に至り、平成32年度の開業を予定しています。



## 1. 対象範囲の設定と基本的な考え方

### (1) 対象範囲の設定

対象範囲を右図の「検討地区」と「周辺地区」に区分します。

#### 検討地区

検討地区は、天神南駅と博多駅を結ぶ「国体道路」及び「はかた駅前通り」沿道とします。

#### 周辺地区

周辺地区は、検討地区と連携することにより、まち全体の魅力を高めることができると考えられるエリアとします。

### (2) 検討の基本的な考え方

「検討地区」はまちづくりテーマやまちづくりの進め方について検討します。

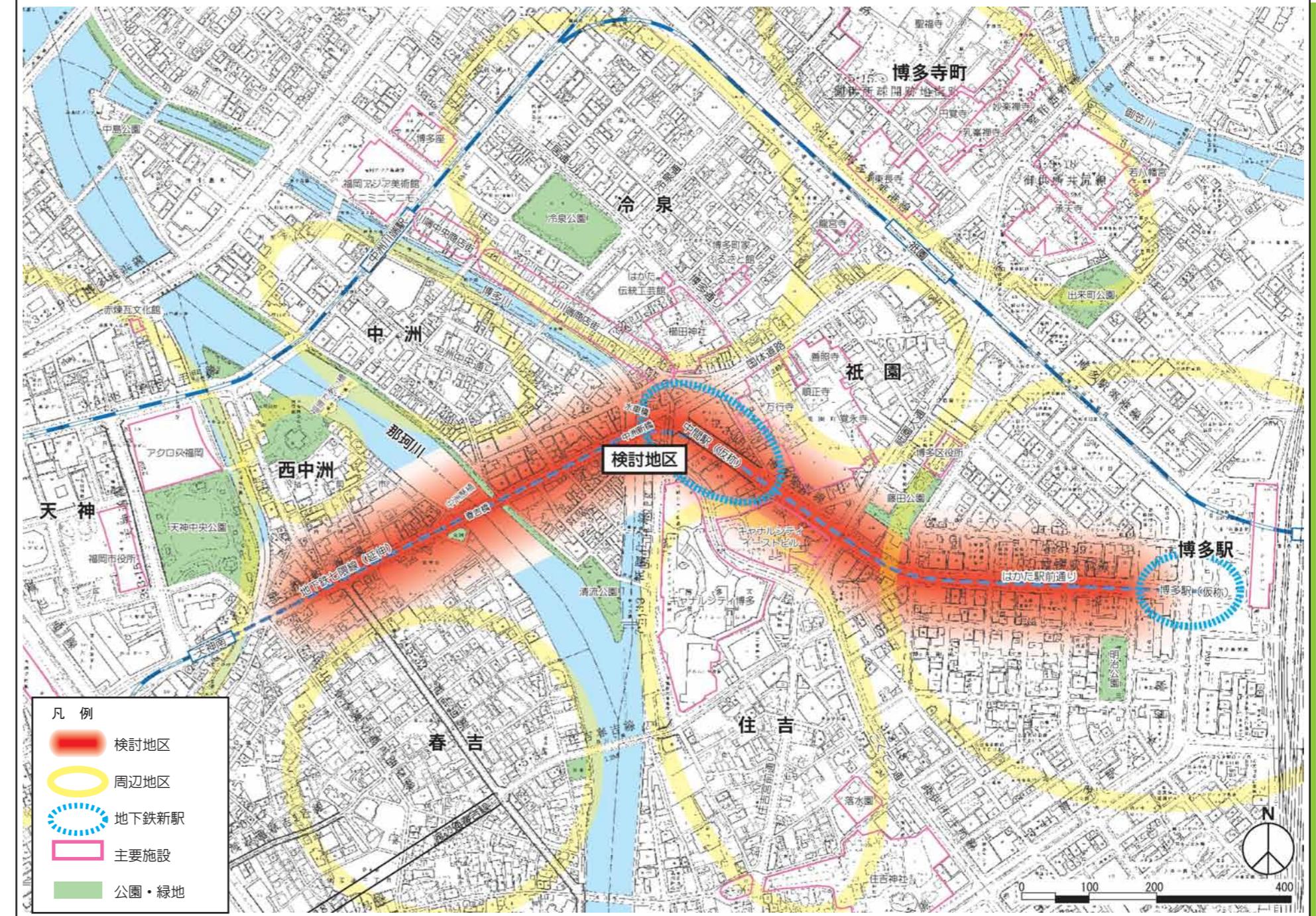
また、地下鉄七隈線の整備と連携しながら、主として天神と博多駅間の回遊性を高めるまちづくりや中間駅周辺での駅を活かしたまちづくりについて検討を進めます。

「周辺地区」は、主として「周辺地区」から見た「検討地区」のあり方について検討を進めます。



先行的に策定された「天神まちづくりガイドライン」及び「博多まちづくりガイドライン」等と整合を図りながら検討を進めます。

#### ■対象範囲



## 2. 地区の現状と問題点等

### (1) 上位計画等の整理

当地区のまちづくりの基本的な方向を検討するための基礎的な条件として、関連する上位計画やまちづくりガイドライン等について整理します。

#### 上位計画等

##### 《福岡市都市計画マスターplan》(H13.05 策定)

###### 都心核形成ゾーン（天神）

「天神地区」は、特に高度な商業・業務・文化・情報機能が集まる核として、また本市を代表する顔となる景観やオープンスペースを備えた交流と潤いのあるまちを目指します。

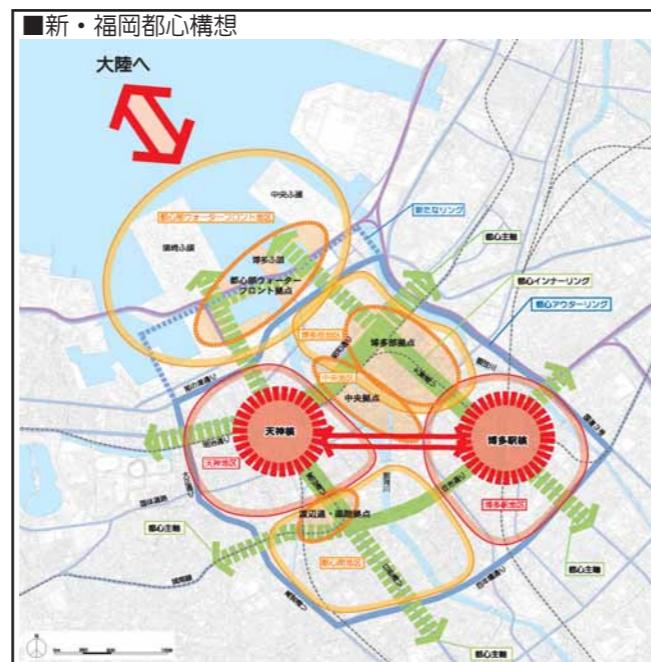
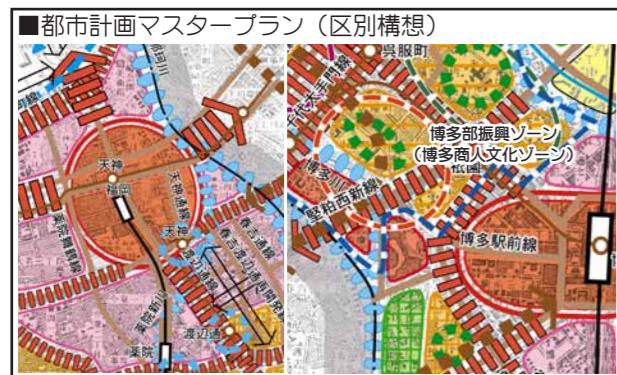
###### 博多部振興ゾーン（博多商人文化ゾーン）

活気ある商業空間と歴史的環境が調和したまちを目指します。

##### 《はかた駅前通り都市景観形成地区》(H23.07 指定)

博多駅地区と天神地区をつなぎ、博多のまちの新たなシンボルとなる魅力的な都市空間の形成を目的とします。

- ・美しさ、風格、賑わいの感じられる空間を形成
- ・緑やオープンスペースのネットワークを創出することにより、快適で潤いのある歩行者空間を形成
- ・多様な人が交流し、楽しさとぬくもりが感じられるアメニティ空間を創出



##### 《新・福岡都心構想》(H18.06 策定)

「天神地区」と「博多駅地区」を結ぶ「中央回遊軸」は、新たな歩行者の回遊軸として、歩道空間の充実や沿道への商業施設等の誘導及び景観整備を進めます。

#### 関連計画・事業等

##### 《はかた駅前通りの取り組み》(H22～23年度)

###### ○通りの将来イメージ

～駅に降り立った人が自然と足を運んでしまう、賑わいあふれる美しい都心回遊のなかみち～

###### ○通り再生の具体的方策

- ・統一感のある舗装で街並みとの調和に配慮
- ・既存の木や花、バナー等によって楽しく賑やかな空間を創出
- ・天神エリアなどにスムーズに誘導するとともに、安心で魅力ある空間を創出
- ・分かりやすい案内の充実
- ・質の高い街並みの形成・活性化



##### ■福博花しるべ (H23年度～)

・九州新幹線開業イベントとして開催。



##### 《福博：都市シニックバイウェイ研究会》

天神と博多を核とする都心部の魅力を高める具体策を語り合い、回遊性を高めるための拠点づくりや交通インフラの必要性などが検討されます。

平成23年3月には、地下鉄七隈線の延伸を見据えた「福博連携の回遊シティづくり」を提唱するシンポジウムが開催されました。



## ■まちづくり組織の活動状況

## We Love 天神協議会（平成18年4月設立）

## 【天神まちづくりガイドラインの策定】（平成20年3月）

天神まちづくりガイドラインは、目指すまちづくりの決意と方向性を表した『「天神」まちづくり憲章』を掲り所とし、地区の関係者が共有できる「将来の目標像」とその実現を図るために「戦略」、及び具体的な活動である「施策」をまとめたものです。

## 「国体道路」の通りのイメージ

## 天神から博多駅へ繋がる「賑わいの都心活動軸」

西はけやき通りから舞鶴公園へ、東は中洲、キヤナルシティを経て博多まで繋がり、昼夜問わず通行量が多い通りであり、沿道の多様な賑わいを楽しみながら快適に通行できる、ゆとりと潤いのある歩行者空間を形成します。



## 博多まちづくり推進協議会（平成20年4月設立）

## 【博多まちづくりガイドラインの策定】（平成21年12月）

博多まちづくりガイドラインは、『博多まちづくり宣言』を踏まえつつ、対象区域内の関係者が共有できる「まちの将来像」とその実現に向け、みんなで協力し合って進めるべき「方針と方策」をテーマ別と主軸別にまとめたものです。

## 「はかた駅前通り」の主軸形成の方針

## 楽しさあふれる回遊主軸の形成

- ・博多のまちの新たなシンボルとなる景観づくり
- ・ゆとりと賑わいに富み、明るくさわやかな景観づくり
- ・歩行者の自由で便利な回遊を強化
- ・まち並みの連続性と歩行者の安全性を確保
- ・夜も心温まるまち並みの演出 など



## 中洲地区安全安心まちづくり協議会（平成18年11月設立）

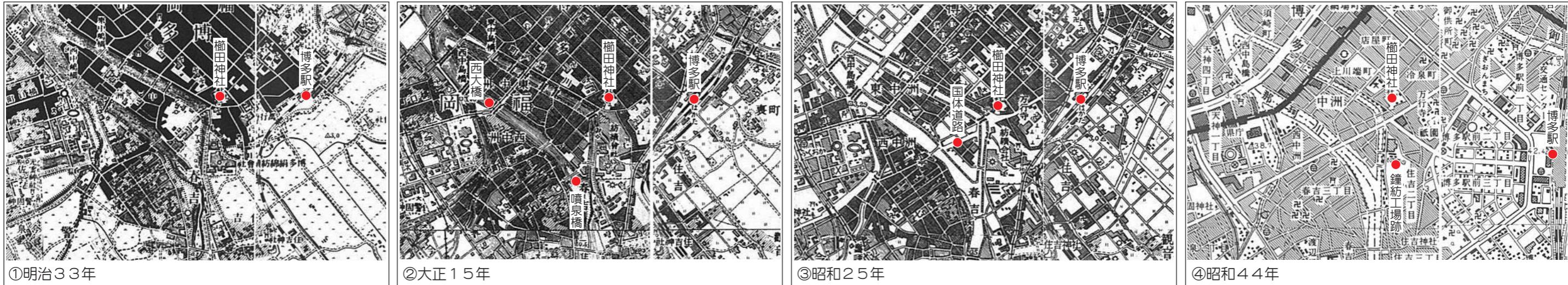
中洲地区安全安心まちづくり協議会は、中洲地区再生に向けた取り組みを行うため、地域（地元）行政や警察、事業者によって設立され、4つのワーキンググループを設け、繁華街対策を推進しています。



《4つのワーキンググループ》  
 ①安全・安心ワーキンググループ  
 ②賑わいワーキンググループ  
 ③クリーンワーキンググループ  
 ④道路ワーキンググループ

## (2) 「検討地区」の魅力の整理

## ①市街地形成の歴史



## 【市街地の変遷】

- 明治22年（1889）九州鉄道博多駅が開業。①
- 明治43年（1910）第13回九州沖縄八県連合共進会を期に西大橋が架けられた。②（福岡市初の市内電車もこの時に敷設）
- 昭和20年（1945）6月19日の福岡大空襲で殆どが壊滅。
- 昭和22年（1947）戦災復興土地区画整理事業着手。（昭和47年事業完了）
- 昭和23年（1948）第3回国民体育大会に併せて国体道路（国道202号）が整備。③
- 昭和33年（1958）博多駅地区土地区画整理事業着手。（昭和48年事業完了）  
土地区画整理事業ではかた駅前通りが整備。④
- 昭和57年（1982）市営地下鉄空港線（天神～中洲川端）が開業  
※地下鉄工事と明治通りの西大橋の整備を行う。⑤
- 昭和60年（1985）市営地下鉄空港線（中洲川端～博多）開業。
- 平成17年（2005）市営地下鉄七隈線（橋本～天神南）開業。



⑤地下鉄工事と西大橋の整備



⑤整備後の西大橋



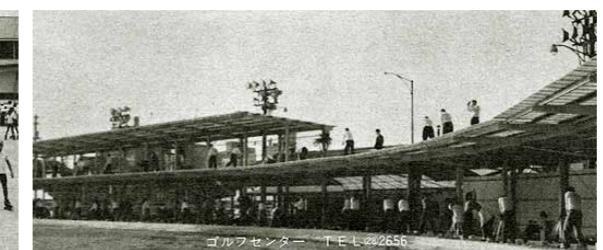
地下鉄七隈線



二代目博多駅



⑥カネボウスポーツセンター（S45 プール、スケート場、ゴルフ練習場）



⑦清流公園（寄進高燈籠）

## ●博多駅

- 明治22年（1889）出来町公園付近に博多駅が開業
- 明治42年（1909）二代目駅舎が完成。
- 昭和38年（1963）土地区画整理事業・鉄道高架に併せて三代目駅舎が完成。
- 平成23年（2011）九州新幹線の開業に併せて、JR博多シティが完成。

## ●キャナルシティ博多

- 昭和36年（1961）カネボウ工場跡地にカネボウスポーツセンターが開業。⑥
- 平成8年（1996）スポーツセンター跡地にキャナルシティ博多が開業。
- 平成23年（2011）キャナルシティ博多イーストビル開業。

## ●清流公園

- 大正14年（1925）東中洲の最南端に「清流橋」を架橋。
- 大正15年（1926）中洲南端に博多噴泉浴場（スパ-銭湯）があり、対岸の春吉方面へ噴泉橋という橋が架かっていた。（福岡大空襲で焼失）
- 平成13年（2001）清流公園とキャナルを結ぶ歩道橋として「夢回廊橋」が新設。
- 明治時代に向島遊園地の開園記念（現在の住吉から中洲にかけて作られた）に住吉神社に寄進した「高燈籠」が昭和29年に公園南端に移築。⑦

②主要施設の分布

①中洲中央通り（中洲ジャズフェスタ）



②博多座



③冷泉公園



④東長寺



⑤川端商店街

⑤川端商店街

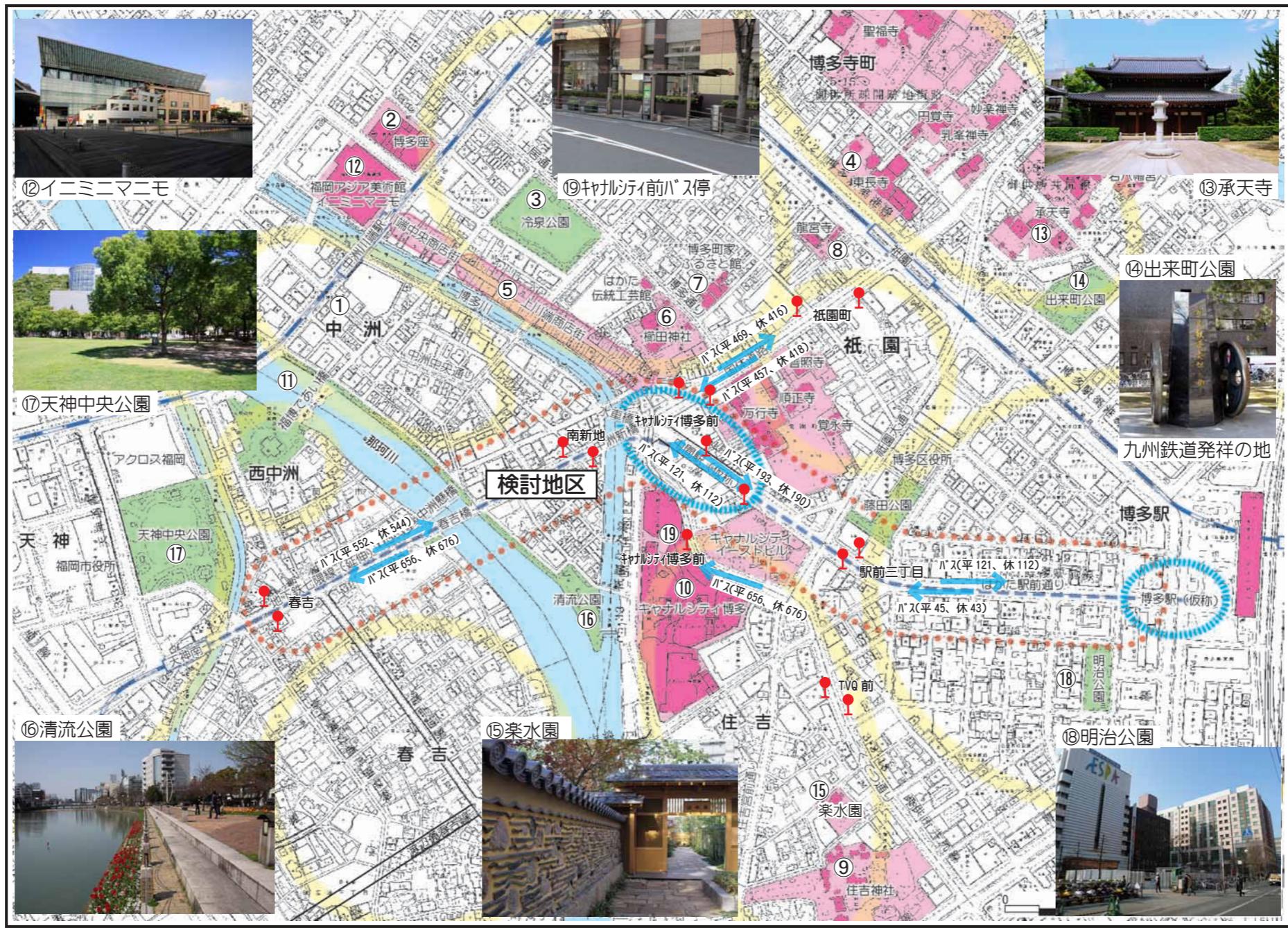


⑥櫛田神社

⑥櫛田神社



⑦博多町家ふるさと館



⑧住吉神社



⑨龍宮寺

